

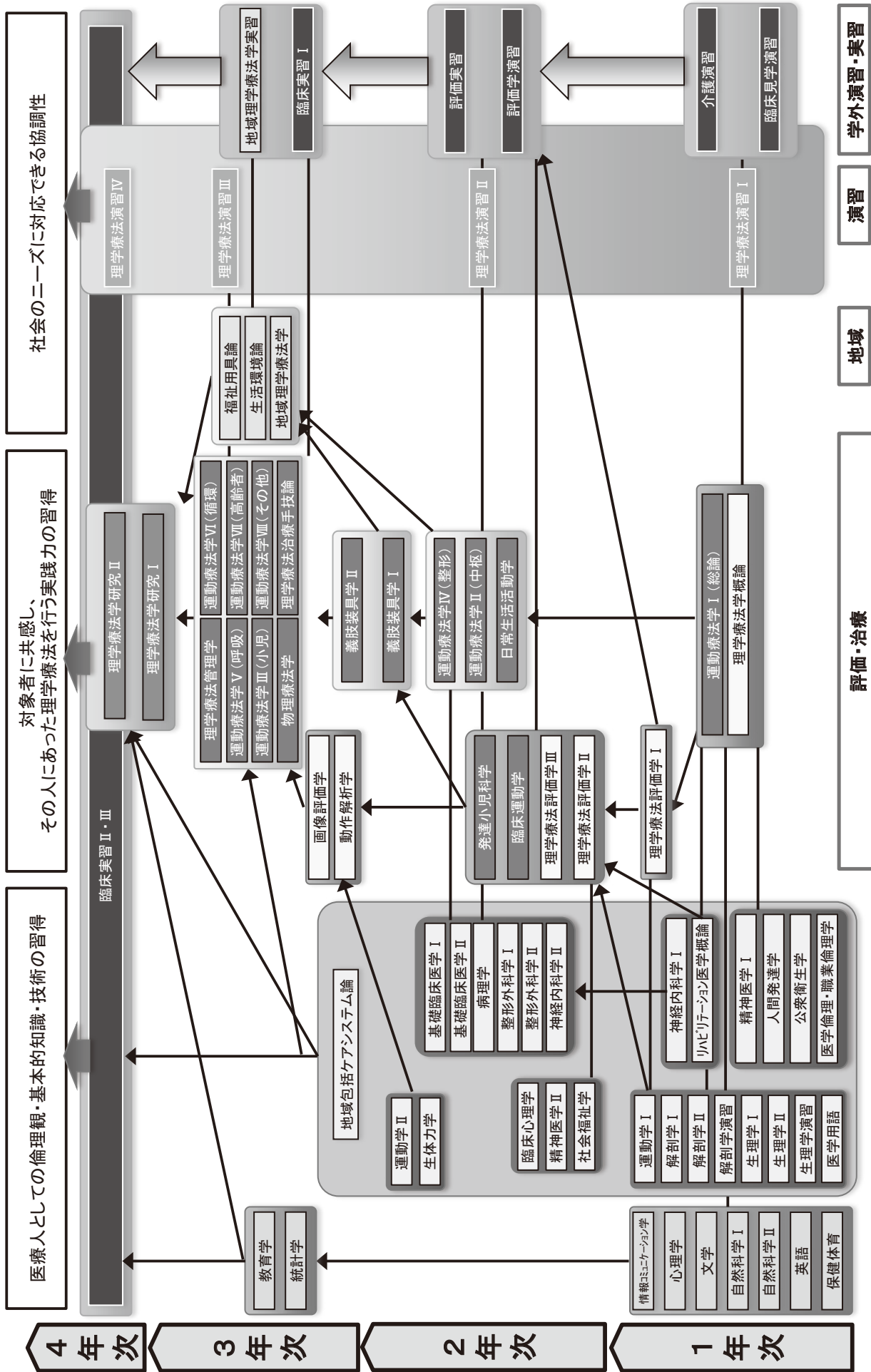
理学療法学科 カリキュラム

〈2・3・4年次〉

分野	教育内容	科目名	1年次		2年次		3年次		4年次		単位数	時間数	備考	厚生労働省基準
			単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数				
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	心理学	2	30							2	30		14
		文学	2	30							2	30		
		自然科学Ⅰ	2	30							2	30	物理学・数学系	
		自然科学Ⅱ	2	30							2	30	生物学系	
		英語	2	30							2	30		
		保健体育	1	30							1	30	講義・実技	
		教育学					2	30			2	30		
		情報コミュニケーション学	1	30							1	30		
	統計学					2	30			2	30			
基礎分野	小計	12	210	0	0	4	60	0	0	16	270		14	
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び 心身の発達	解剖学Ⅰ	4	60							4	60		12
		解剖学Ⅱ	4	60							4	60		
		解剖学演習	1	30							1	30		
		生理学Ⅰ	4	60							4	60		
		生理学Ⅱ	4	60							4	60		
		生理学演習	1	30							1	30		
		運動学Ⅰ	4	60							4	60		
		運動学Ⅱ			2	30					2	30		
		人間発達学	2	30							2	30		
		生体力学			2	30					2	30		
	疾病と障害の 成り立ち 及び 回復過程の促進	病理学			2	30					2	30		14
		神経内科学Ⅰ	2	30							2	30		
		神経内科学Ⅱ			2	30					2	30		
		精神医学Ⅰ	2	30							2	30		
		精神医学Ⅱ			2	30					2	30		
		臨床心理学			2	30					2	30		
		基礎臨床医学Ⅰ			2	30					2	30	栄養・救急救命・予防	
		基礎臨床医学Ⅱ			2	30					2	30	薬学・画像	
		臨床医学Ⅰ			2	30					2	30	外科学・脳神経外科学	
		臨床医学Ⅱ			2	30					2	30	内科学・小児科学	
		臨床医学Ⅲ			2	30					2	30	一般臨床医学	
		整形外科Ⅰ			2	30					2	30		
	整形外科Ⅱ			2	30					2	30			
保健医療福祉と リハビリテーション の理念	リハビリテーション医学概論	2	30							2	30		4	
	社会福祉学			1	15					1	15			
	地域包括ケアシステム論					2	30			2	30	自立支援・就労支援及び多職種連携含む		
	医学倫理・職業倫理学	2	30							2	30			
	公衆衛生学	1	15							1	15			
専門基礎分野	小計	33	525	27	405	2	30	0	0	62	960		30	

分野	教育内容	科目名	1年次		2年次		3年次		4年次		単位数	時間数	備考	厚生労働省基準	
			単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数					
専 門 分 野	基礎理学療法学	理学療法学概論	2	60							2	60		6	
		臨床運動学			2	60					2	60			
		発達小児科学			1	30					1	30			
		臨床見学演習	1	30							1	30			
	理学療法管理学	理学療法管理学					2	60			2	60	職場管理、理学療法教育及び職業倫理含む	2	
	理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ	1	30							1	30		6	
		理学療法評価学Ⅱ			1	30					1	30			
		理学療法評価学Ⅲ			1	30					1	30			
		動作解析学					1	30			1	30			
		画像評価学					1	30			1	30			
		評価学演習			1	30					1	30			
	理学療法治療学	運動療法学Ⅰ（総論）	1	30							1	30		20	
		運動療法学Ⅱ（中枢）			2	60					2	60			
		運動療法学Ⅲ（小児）					1	30			1	30			
		運動療法学Ⅳ（整形）			2	60					2	60			
		運動療法学Ⅴ（呼吸）					1	30			1	30	喀痰等の吸引含む		
		運動療法学Ⅵ（循環）					1	30			1	30			
		運動療法学Ⅶ（高齢者）					1	30			1	30			
		運動療法学Ⅷ（その他）					1	30			1	30			
		理学療法治療手技論					2	60			2	60			
		物理療法学					2	60			2	60			
		義肢装具学Ⅰ			1	30					1	30			
		義肢装具学Ⅱ					1	30			1	30			
		日常生活活動学			1	30					1	30			
		理学療法学研究Ⅰ					1	30			1	30			
		理学療法学研究Ⅱ								1	30	1	30		卒業論文作成含む
		理学療法演習Ⅰ	1	30							1	30			
理学療法演習Ⅱ				1	30					1	30				
理学療法演習Ⅲ					1	30			1	30					
理学療法演習Ⅳ								2	60	2	60				
地域理学療法学	生活環境論					1	30			1	30		3		
	地域理学療法学			1	30					1	30				
	福祉用具論					1	30			1	30				
	介護演習	1	30							1	30				
臨床実習	評価実習			3	120					3	120		20		
	地域理学療法学実習					1	40			1	40				
	臨床実習Ⅰ					7	280			7	280				
	臨床実習Ⅱ								8	360	8	360			
	臨床実習Ⅲ								8	360	8	360			
専門分野	小計	7	210	17	540	26	860	19	810	69	2420		57		
	総計	52	945	44	945	32	950	19	810	147	3650		101		

理学療法学科カリキュラムツリー



3 年 次

令和6年度 前学期

時間割

理学療法学科 3年

		月	火	水	木	金
1	9:00~ 10:30			動作解析学 松原	生活環境論 高田	運動療法学Ⅷ (その他) 明瀬
2	10:40~ 12:10	画像評価学 次山	運動療法学Ⅶ (高齢者) 次山	教育学 石村		運動療法学Ⅴ (呼吸) 真鍋
3	13:10~ 14:40	運動療法学Ⅲ (小児) 高嶋	物理療法学 明瀬	理学療法 治療手技論 福島	義肢装具学Ⅱ 笹川, 福島	理学療法管理学 坂崎
4	14:50~ 16:20					

令和6年度 後学期

時間割

理学療法学科 3年

		月	火	水	木	金
1	9:00~ 10:30	統計学 堤	理学療法演習Ⅲ 次山, P T 講師	理学療法学研究Ⅰ 次山, P T 講師	理学療法 治療手技論 福島, P T 講師	地域包括 ケアシステム論 池田
2	10:40~ 12:10					
3	13:10~ 14:40				福祉用具論 竹内, 高嶋	
4	14:50~ 16:20					

※「時間割」は変更されることがあります。

目次：理学療法学科 3 年次

教育学	75
統計学	75
地域包括ケアシステム論	76
理学療法管理学	77
動作解析学	79
画像評価学	80
運動療法学Ⅲ（小児）	81
運動療法学Ⅴ（呼吸）	82
運動療法学Ⅵ（循環）	83
運動療法学Ⅶ（高齢者）	84
運動療法学Ⅷ（その他）	85
理学療法治療手技論	86
物理療法学	87
義肢装具学Ⅱ	88
理学療法学研究Ⅰ	89
理学療法演習Ⅲ	90
生活環境論	91
福祉用具論	92
地域理学療法実習	93
臨床実習Ⅰ	93

学 科	理学療法学科 3年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	科目名	教育 学
代表講師	石 村 秀 登 (所属：熊本県立大学共通教育センター)				
授業方法	講 義	単位数	2	学期・回数	前期：15回(30時間)
授業概要	教育は、人間がこの社会の中で存在するために必要不可欠な営みである。教育のはたらきの基礎を学び、教育のさまざまな姿を知る。				
到達目標	社会的・文化的背景をふまえた人間理解を目指し、医療と教育との関わりについて考察することができるようにする。				
成績評価の方法と基準	学期末試験で評価する。				
テキスト・教材等	テキストは使用しない。印刷資料、映像資料などをその都度用意する。				
回 数	授 業 内 容				
第1回	オリエンテーション：教育学とは何か				
第2回	教育の必要性と可能性①：野性の少年				
第3回	教育の必要性と可能性②：遺伝と環境				
第4回	教育の目的：何のために教育するのか				
第5回	教育の歴史と思想①：わが国の教育の歴史と思想①				
第6回	教育の歴史と思想②：わが国の教育の歴史と思想②				
第7回	教育の歴史と思想③：西洋の教育の歴史と思想				
第8回	教育の現状①：学校教育の制度と内容				
第9回	教育の現状②：学校教育の課題				
第10回	教育の現状③：家族と教育				
第11回	医療と教育①：科学の発展と教育				
第12回	医療と教育②：教育学における人間学的見方				
第13回	特別支援教育①：障がいと教育				
第14回	特別支援教育②：特別支援教育の現状と歴史				
第15回	試 験				

学 科	理学療法学科 3年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	科目名	統 計 学
代表講師	堤 文 生 (理学療法士)				
授業方法	講 義	単位数	2	学期・回数	後期：15回(30時間)
授業概要	統計の基本的な考え方を理解する。パソコンを用いて、エクセル関数及び統計ソフトを活用し、臨床的なデータを実践的に理解する。				
到達目標	基本統計から応用統計まで学ぶ。卒業論文での統計処理ができる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験(80%)及び講義における課題レポート(20%)。				
テキスト・教材等	自作の資料を配布する(プリント及びエクセルデータ)				
回 数	授 業 内 容				
第1回	統計学の考え方、データの収集(エゴグラムとストレスのアンケート調査)				
第2回	度数分布、クロス集計の求め方				
第3回	標本の代表値(平均値、分散、標準偏差、中央値、四分位数)				
第4回	度数分布と適合性の検定				
第5回	クロス集計と独立性の検定				
第6回	正規分布について、正規性の検定				
第7回	相関係数(ピアソンの積率相関係数、スピアマンの順位相関係数)				
第8回	回帰直線、相関係数の検定、相関係数の差の検定				
第9回	関連2群の表の検定(1標本t検定、ウィルコクソン検定)				
第10回	独立2群の表の検定(2標本t検定、マンホイットニー検定)				
第11回	ROC分析、独立多群の差の検定(分散分析、クロスカルワークス検定)				
第12回	関連多群の差の検定(分散分析、多重比較)因子分析、主成分分析				
第13回	多変量解析(重回帰分析、多重ロジスティック回帰分析)				
第14回	第1回模擬問題の解説、第2回模擬問題(自己学習用配布)				
第15回	試 験				

学 科	理学療法学科 3年次	教育 内容	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	科目名	地域包括ケアシステム論
代表講師	池田 耕 治 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	後期：15回 (30時間)
授 業 概 要	理学療法士として必要となる地域包括ケアシステムについて「多職種連携」の観点から基本的概要について学習する。災害リハビリテーション、e-sport、フェムテック、パラリンピックなど、理学療法士が病院・施設以外で活躍する場面と地域リハビリテーション（地域包括ケアシステム）との関係について学習する。				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステム及び多職種連携について基本的概要を理解し説明することができる。 ・関連職種（多職種）の概要と役割について理解し説明することができる。 ・病院・施設以外での理学療法士の役割りと地域リハビリテーションの関係について理解し説明できる。 				
成績評価の方法と基準	<p>[筆記試験] 実施しない</p> <p>[準備学習・その他] 事前課題の提出、確認テスト（診断的評価・形成的評価）及びその他の課題シートを総合して評価する。</p> <p>[備考] 課題は熊リハ Moodle に提示し、提出期限等について記載している。授業の進捗度、理解度等により変更する場合もある。</p>				
テキスト・教材等	配布資料				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	地域包括ケアシステム (1) 多職種連携、地域包括支援センター、地域ケア会議等				池田耕治
第2回	地域包括ケアシステム (3) 災害リハビリテーションの観点からみた地域包括ケアシステム ・大規模災害における初動や保健医療調整本部立ち上げまでの行程などを体験する (REHSUG) ・令和2年度7月豪雨における熊本 JRAT の活動 ・大規模災害要配慮者などへ展開される基本的リハビリテーション支援を体験する (DREAG) ・災害リハビリテーション支援の実際				非常勤講師
第3回					〃
第4回					〃
第5回					〃
第6回					〃
第7回	地域包括ケアシステム (4) e-Sports の観点からみた地域包括ケアシステム				〃
第8回	地域包括ケアシステム (5) フェムテックの観点からみた地域包括ケアシステム				〃
第9回					〃
第10回	地域包括ケアシステム (6) パラスポーツの観点からみた地域包括ケアシステム				〃
第11回					〃
第12回	地域包括ケアシステム (7) サルコペニア・栄養の観点からみた地域包括ケアシステム				〃
第13回					〃
第14回	地域包括ケアシステム (8) 薬剤師からみた理学療法と地域包括ケアシステム				〃
第15回					〃

学 科	理学療法学科 3年次	教育 内容	理学療法管理学	科目名	理学療法管理学
代 表 講 師	坂 崎 浩 一 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	前期：30回(60時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法士として、職能団体の役員を担う教員が、理学療法管理の必要性和組織における管理のあり方、社会保障の概要、および職能団体における活動概要について説明指導する。				
授 業 概 要	理学療法士として、理学療法部門の業務を適正に管理運営するにあたっての管理についての理解を深め、国家資格取得後に現場で活動する医療人・組織人としての資質を高めることを目的とする。チームの一員としてまた、管理者として求められる社会保障制度の概要や職場での管理業務・リスク管理のあり方、自己管理や学生指導の基本的考え方等について理解を深める。職能団体の活動状況の理解を踏まえ、広く国民の医療・保健・福祉の向上に資するための取り組みについて学ぶ。				
到 達 目 標	理学療法管理学の必要性を説明できる。 病院等の組織とその管理のあり方を説明できる。 社会保障の概要を説明できる 職能団体の活動内容について説明できる。				
成績評価の方法と基準	確認試験 50%、課題レポート・発表 10%、前期試験 40%				
テキスト・教材等	理学療法管理学 (中山書店)				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	理学療法と管理学の背景 ・病院管理学と医療管理学 ・人口構造と制度の変遷				
第 2 回	理学療法と管理学の背景 ・理学療法士教育における管理学の必要性 ・日本理学療法士協会の取組み				
第 3 回	病院の分類と組織 ・医療法と関連法規				
第 4 回	病院の分類と組織 ・地域医療計画制度と地域完結医療 ・医療施設の分類				
第 5 回	専門職とチームケア ・チームケアの必要性とその背景				
第 6 回	専門職とチームケア ・医療におけるケアチームと各種委員会				
第 7 回	確認試験① 社会保障の仕組み ・社会保障の構成要素とその役割 ・保険料を財源とする社会保険 ・税金を財源とする生活保護・社会福祉・公衆衛生				
第 8 回	社会保障の仕組み ・社会保障の機能 ・税金と保険料負担				
第 9 回	医療保険制度 ・医療保険制度の歴史と概要 ・医療保険制度体系の概要				
第10回	医療保険制度 ・医療保険制度体系の概要 ・高齢者医療制度				
第11回	介護保険制度 ・介護保険制度の特徴 ・申請から介護認定まで				
第12回	介護保険制度 ・ケアプラン作成とサービス利用 ・高齢者の住まい				
第13回	確認試験② 診療報酬・介護報酬と収益構造 ・出来高払いと包括払い ・包括的医療費支払制度				

回数	授業内容
第14回	診療報酬・介護報酬と収益構造 ・診療報酬の概要 ・各種リハビリテーション料について（疾患別リハビリテーション料・リハビリテーション総合計画評価料 等）
第15回	診療報酬・介護報酬と収益構造 ・介護報酬の仕組み ・訪問リハ、通所リハ、老健における介護報酬
第16回	診療報酬・介護報酬と収益構造 ・人件費とコスト ・給与の背景
第17回	保健・医療・介護・福祉の連携 ・保健医療福祉介護の連携の概要 ・保健と医療の連携
第18回	保健・医療・介護・福祉の連携 ・保健・医療・介護・福祉の連携 ・障害と福祉
第19回	確認試験③ 業務管理 ・理学療法業務の流れ ・他職種との連携
第20回	業務管理 ・業務管理、労務管理 ・ハラスメントへの対応、ストレスへの対応
第21回	業務管理 ・人事考課 ・新人理学療法士のための職員研修 ・OJT,offJT
第22回	業務管理 ・業務改善 ・監査への対応
第23回	情報管理 ・理学療法に必要な情報と診療記録とその管理
第24回	情報管理 ・必要な情報を得るためのコミュニケーションと接遇
第25回	確認試験④ リスク管理 ・医療介護におけるコンプライアンス ・インシデントとアクシデント
第26回	リスク管理 ・ハインリッヒの法則 ・安全への取り組み
第27回	見極め試験④ 感染症対策 ・感染症の構成要素 ・感染症の予防 ・感染対策と理学療法
第28回	権利擁護と職業倫理 ・インフォームドコンセント ・個人情報保護 ・職業倫理 ・コンフリクトマネジメント
第29回	医療広告ガイドライン 日本理学療法士協会と熊本県理学療法士協会 理学療法士の政治・施策への関り ・職能団体としての政治への関わり ・個人としての政治への関わり
第30回	試験

学 科	理学療法学科 3年次	教育 内容	理学療法評価学	科目名	動作解析学
代表講師	松原 誠 仁 (所属：熊本保健科学大学)				
授業方法	講 義	単位数	1	学期・回数	前期：15回 (30時間)
授業概要	人間の動作や運動に関わる諸原理と臨床上の問題との関係を学ぶ。また、1つの課題に対して、グループで協働して調査し、得られた結果をまとめて発表する。				
到達目標	①力学的原理に基づく運動の記述と解釈ができる。 ②姿勢の計測と記述および解釈ができる。 ③動作の計測と記述および解釈ができる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 (70%)・課題レポート (15%)・プレゼンテーション (15%)				
テキスト・教材等	『臨床歩行分析ワークブック』、プリント、その他 資料配布				
回 数	授 業 内 容				
第1回	動作解析学の概要：理学療法における動作解析の領域、臨床上の問題				
第2回	運動学的分析①：身体運動の運動学的表現				
第3回	運動学的分析②：身体重心の算出と運動連鎖				
第4回	身体運動分析の実際：kinovea を用いた運動学的分析				
第5回	身体運動分析の実際：3次元自動動作分析装置を用いた運動学的分析				
第6回	運動と力①：力の作用、モーメント、つり合い式				
第7回	運動と力②：運動の法則、地面反力				
第8回	運動力学的分析①：関節トルク、パワー、エネルギー				
第9回	運動学的分析と力学的分析：筋活動量の推定				
第10回	運動力学的分析の実際：地面反力計				
第11回	データ処理演習①：運動学的分析のデータ処理と解釈				
第12回	データ処理演習②：運動力学的分析のデータ処理と解釈				
第13回	データ処理演習③：筋活動と動作の推定				
第14回	総合ディスカッション：課題レポート発表とディスカッション				
第15回	試 験				

学 科	理学療法学科 3年次	教育 内容	理学療法評価学	科目名	画像評価学
代 表 講 師	次 山 航 平 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講 義	単位数	1	学期・回数	前期：15回(30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法士として病院に勤務していた教員が、患者の評価及び治療等を行う前に実施する情報収集において理解しておくべき画像評価(解釈)について講義を行う。				
授 業 概 要	画像評価学では、脳、脊柱、上下肢及び内臓について基本的な読影について学習し、疾患の概要に接近する。				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・各画像からの情報を収集し説明することができる。 ・それらの情報から病態を解釈し説明できる。 ・理学療法士として運動療法や物理療法につなげることができる。 				
成績評価の方法と基準	筆記試験				
テキスト・教材等	『リハビリテーション医療に活かす画像のみかた 症例から学び障害を読み解く』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	オリエンテーション, 画像読影の基礎				次山航平
第2回	正常の脳画像について理解する				〃
第3回	国家試験問題を通して中枢疾患の画像を理解する				〃
第4回	国家試験問題を通して中枢疾患の画像を理解する				〃
第5回	正常の運動器画像について理解する				高田理恵子
第6回	国家試験問題を通して整形疾患の画像を理解する				〃
第7回	国家試験問題を通して整形疾患の画像を理解する				〃
第8回	正常の呼吸器画像について理解する				次山航平
第9回	国家試験問題を通して呼吸器疾患の画像を理解する				〃
第10回	国家試験問題を通して呼吸器疾患の画像を理解する				〃
第11回	正常の循環器画像について理解する				〃
第12回	国家試験問題を通して循環器疾患の画像を理解する				〃
第13回	国家試験問題を通して循環器疾患の画像を理解する				〃
第14回	運動器, 末梢血管のエコーの診方				次山航平 高田理恵子
第15回	試 験				

学 科	理学療法学科 3年次	教育 内容	理学療法治療学	科目名	運動療法学Ⅲ（小児）
代表講師	高 嶋 美 和（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講義・実技	単位数	1	学期・回数	前期：15回（30時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	児童発達支援センター[福祉型（通所）、医療型（入所）]、多機能事業所（児童発達支援・放課後等デイサービス・通所介護）、特別支援学校（外部専門家）で臨床経験のある理学療法士が、実際の事例を紹介しながら授業を展開する。				
授 業 概 要	小児理学療法の主たる対象となる脳性まひ、二分脊椎、ダウン症、進行性筋ジストロフィー、医療的ケア児について学ぶ。各疾患の概要、病因、分類、症状、経過とリハビリテーションにおける理学療法的位置づけ・評価、治療計画と理学療法の展開について理解することを目標とする。				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・脳性まひ、二分脊椎、ダウン症候群、進行性筋ジストロフィー、医療的ケア児の発達上の特徴を理解し、必要な理学療法評価と理学療法のポイントを説明できる。 ・発達期に特化した評価表（GMFM、GMFCS、WeeFIM、PEDI）の概要を説明できる。 				
成績評価の方法と基準	形成的評価50%（講義時の小テスト）、到達度評価50%（期末試験／筆記試験）				
テキスト・教材等	『シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法テキスト』、配布資料				
回 数	授 業 内 容				
第1回	脳性まひ総論1 定義および分類、疫学、原因と病理、脳性麻痺の分類について説明できる。（教科書 p.71～79）				
第2回	脳性まひ総論2 症状と二次障害、評価、理学療法について説明できる。（教科書 p.79～90）				
第3回	小児分野の評価表1 運動機能評価と重症度分類 GMFM、GMFCS の概要と実施方法について説明できる。（教科書 p.21～29）				
第4回	小児分野の評価表2 ADL 評価 WeeFIM、PEDI の概要と実施方法について説明できる。（教科書 p.29～32）				
第5回	痙直型脳性まひ1 痙直型四肢麻痺の臨床症状と運動発達、評価、理学療法について説明できる。（教科書 p.91～103）				
第6回	痙直型脳性まひ2 痙直型両麻痺の臨床症状と運動発達、評価、理学療法について説明できる。（教科書 p.108～119）				
第7回	痙直型脳性まひ3（教科書 p.104-107,120-127） 四肢麻痺・両麻痺のケーススタディを通して、具体的な症例の理学療法の展開について説明できる。				
第8回	痙直型脳性まひ4 痙直型片麻痺の臨床症状および評価と理学療法、ケーススタディについて説明できる。（教科書 p.128～140）				
第9回	アトローゼ型脳性まひ1 アトローゼ型脳性麻痺の臨床症状、評価と理学療法について説明できる。（教科書 p.141～155）				
第10回	アトローゼ型脳性まひ2（教科書 p.156～161） アトローゼ型のケーススタディを通して、具体的な症例の理学療法の展開について説明できる。				
第11回	二分脊椎の臨床症状および評価と理学療法について説明できる。 （教科書 p.162～169,174）				
第12回	ダウン症候群の臨床症状および評価と理学療法について説明できる。 （教科書 p.176,178,184-189）				
第13回	デュシャンヌ型筋ジストロフィーの臨床症状および評価と理学療法について説明できる。 （教科書 p.190～202,204）				
第14回	医療的ケア児・重症心身障害児・者の臨床症状および評価と理学療法について説明できる。 （教科書 p.209-223）				
第15回	試 験				

学 科	理学療法学科 3年次	教育 内容	理学療法治療学	科目名	運動療法学V（呼吸）
代表講師	真 鍋 靖 博（所属：古賀病院 21）				
授業方法	講 義	単位数	1	学期・回数	前期：15回（30時間）
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ COPDを中心とした慢性呼吸不全、ARDS等の急性呼吸不全、開胸開腹術前後の呼吸リハビリテーションにおける、病態生理・理学療法評価・運動療法を中心とした理学療法の実践が理解できる。また、栄養・薬理・画像所見について理解できる。 ・ 各評価方法や理学療法については実技が習得できる。 ・ 喀痰等の吸引については、理学療法の実践に関する知識と技術を習得することを目標とする。 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ COPDを中心とした慢性呼吸不全、ARDS等の急性呼吸不全、開胸開腹術前後の呼吸リハビリテーションにおける、病態生理・理学療法評価・運動療法を中心とした理学療法の実践が理解できる。また、栄養・薬理・画像所見について理解できる。 ・ 各評価方法や理学療法については実技が習得できる。 ・ 喀痰等の吸引については、理学療法の実践に関する知識と技術を習得することを目標とする。 				
成績評価の方法と基準	筆記試験				
テキスト・教材等	『動画でわかる呼吸リハビリテーション』				
回 数	授 業 内 容				
第1回	概論：呼吸リハビリテーション				
第2回	呼吸理学療法の評価：必須の評価、望ましい評価				
第3回	呼吸理学療法の評価：可能であれば行う評価、その他の評価				
第4回	呼吸理学療法の評価：実技				
第5回	呼吸理学療法の評価：実技				
第6回	運動療法：リラクゼーション、呼吸訓練、排痰法				
第7回	運動療法：実技				
第8回	運動療法：実技				
第9回	急性呼吸不全：病態の理解				
第10回	急性呼吸不全：呼吸理学療法の意義				
第11回	術前術後の呼吸リハビリテーション				
第12回	人工呼吸管理下における呼吸理学療法、NIPPVについて				
第13回	吸引：講義及びモデルを使用した実技				
第14回	まとめ				
第15回	試 験				

学 科	理学療法学科 3年次	教育 内容	理学療法治療学	科目名	運動療法学VI（循環）
代表講師	加藤孝則（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授業方法	講義	単位数	1	学期・回数	前期：15回（30時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法士として病院に勤務していた教員が、患者の評価、治療、生活支援等の経験を活かし、運動療法の適応と禁忌、リスク管理を踏まえ、循環器疾患における必要な基礎知識や運動療法の方法について講義を行う。				
授業概要	循環器疾患の病態・評価を学び、リハビリテーションの意義やリスク管理、運動療法の実際について学ぶ。				
到達目標	1. 心臓リハビリテーションの目的・効果を理解する。 2. 心不全や急性冠症候群・大血管疾患などの病態を理解する。 3. 運動療法実施の際のリスク管理について理解する。				
成績評価の方法と基準	形成的評価（30%）、修得度確認試験（70%）				
テキスト・教材等	『病気がみえる（vol.2）循環器』、『PT・OT ビジュアルテキスト 内部障害理学療法学』				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	心臓リハビリテーションの目的や効果を理解して、説明できる。				加藤孝則
第2回	心臓の形態、心室・心房・弁膜の構造と働き、刺激伝導系・血管系について理解して、説明できる				〃
第3回	心拍出量・心拍数と血圧の関係、最大酸素摂取量について理解して、説明できる。				〃
第4回	フィジカルアセスメント、X-P・CT等画像、心臓エコー検査について理解できる。				〃
第5回	心電図の基礎・不整脈について理解して、説明できる。				〃
第6回	急性心不全の病態・治療について理解して、説明できる。				〃
第7回	慢性心不全の病態・治療について理解して、説明できる。				〃
第8回	急性冠症候群（狭心症・急性心筋梗塞・心臓突然死）における病態・治療について理解して、説明できる。				〃
第9回	急性心筋梗塞（急性期）の治療について理解して、説明できる。				〃
第10回	急性心筋梗塞（慢性期）の治療について理解して、説明できる。				〃
第11回	運動処方（心肺運動負荷試験及びAT）について理解して、説明できる。				〃
第12回	心臓血管外科手術の適応疾患や周術期のリハビリテーションの流れ（管理・早期離床）について理解して、説明できる。				〃
第13回	末梢動脈疾患（閉塞性動脈硬化症・血管炎等）について病態・治療を理解して、説明できる。				次山航平
第14回	代謝疾患（特に糖尿病）について病態・治療を理解して、説明できる。				〃
第15回	修得度確認試験及び解説				

学 科	理学療法学科 3年次	教育 内容	理学療法治療学	科目名	運動療法学Ⅶ（高齢者）
代表講師	次 山 航 平（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授業方法	講 義	単位数	1	学期・回数	前期：15回（30時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法士に必要な臨床能力を身に着けるために、学内において臨床経験豊富な専門力を持つ専任講師の指導の下、高齢者の心身機能、障害像、評価、プログラム立案及び地域高齢者と理学療法士のかかわりについて学習する。				
授業概要	学科専任講師が分担し、高齢者の心身機能の特徴や障害像、その評価とプログラム立案などについて指導していく。また、介護予防をはじめとした地域高齢者との関りについても指導していく。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の心身の特徴について理解し、説明できる。 ・高齢者の健康維持向上のための理学療法を理解し、説明できる。 ・高齢者の生活支援のための理学療法を理解し、説明できる。 				
成績評価の方法と基準	筆記試験 100%				
テキスト・教材等	『シンプル理学療法学シリーズ 高齢者理学療法学テキスト』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	ライフステージと高齢者：定義「老い」の受容・心構えについて理解し、説明できる。				次山航平
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の身体的特徴について理解し、説明できる。 ・高齢者の認知・精神的特徴について理解し、説明できる。 				高嶋美和
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・老年症候群の概要について理解し、説明できる。 ・代表的な老年症候群について理解し説明できる。 				〃
第4回	高齢者の生活機能評価：認知・精神機能評価、日常生活活動評価、QOL 評価				次山航平
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防の一次予防、二次予防、三次予防について理解し、説明できる。 ・介護予防における理学療法士の役割について理解し、説明できる。 				加藤孝則
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の理学療法に伴うリスク管理について理解し、説明できる。 ①安静時の弊害と廃用症候群（生活不活発病） ②低・過栄養と栄養管理 ③運動と運動負荷量設定方法 ④ NCDs（非感染性疾患） 				〃
第7回	大腿骨頸部骨折の理学療法について事例を通して、具体的なプログラム立案ができる。				高田理恵子
第8回	変形性膝関節症の理学療法について事例を通して、具体的なプログラム立案ができる。				〃
第9回	高齢者の中枢神経障害と理学療法について理解し、説明できる。				次山航平
第10回	高齢者の中枢神経障害と理学療法について理解し、説明できる。				〃
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病の理学療法について理解し、説明できる。 ・事例検討を通して、具体的プログラムを立案できる。 				〃
第12回	<ul style="list-style-type: none"> ・心疾患の理学療法について理解し、説明できる。 ・事例検討を通して、具体的プログラムを立案できる。 				〃
第13回	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器疾患の理学療法について理解し、説明できる。 ・事例検討を通して、具体的プログラムを立案できる。 				加藤孝則
第14回	地域高齢者と理学療法士：リハビリテーションサービス（入所・通所・訪問）について理解し、説明できる。高齢者の認知症と理学療法：認知症の理学療法について理解し、説明できる。				次山航平
第15回	試 験				

学 科	理学療法学科 3年次	教育 内容	理学療法治療学	科目名	運動療法学Ⅷ（その他）
代 表 講 師	明 瀬 敬 二（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講 義	単位数	1	学期・回数	前期：15回（30時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法業務に携わった経験を持つ教員が、がんリハ・ウィメンズヘルス・糖尿病などの内部障害に対して講義し、障害像や評価、プログラムの立案・実施などについて指導する。				
授 業 概 要	健康的で充実したQOL を各個人が主体的に取り組めるよう学習する。健康を軸にして社会情勢の変化と健康概念の変遷との関係を、理学療法士の健康増進活動における役割について概説し、健康増進・予防環境保健医学などの理解につなげる。				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・がんのリハビリテーションを理解し説明できる。 ・ウィメンズヘルスについて理解し説明できる。 ・熱傷に対するリハビリテーションを理解し説明できる。 ・排泄の評価と理学療法について理解し説明できる。 ・糖尿病ほか、代謝性疾患のリハビリテーションを理解し説明できる。 ・ニューロリハビリテーションについて理解し説明できる。 				
成績評価の方法と基準	<p>[筆記試験] 実施しない</p> <p>[準備学習・その他] 事前課題の提出、確認テスト（診断的評価・形成的評価）及びその他の課題シートを総合して評価する。</p> <p>[備考] 課題は熊リハ Moodle に提示し、提出期限等について記載している。</p>				
テキスト・教材等	配布資料等				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	がんの現状・がんのリハビリテーションの定義と目的を理解し、説明できる。				明瀬敬二
第2回	がんの特徴・がんの病期分類・がんの Stage 分類・部位別の特徴を理解し、説明できる。				〃
第3回	がんの基本治療を理解し、説明できる。				〃
第4回	がんのリハビリテーションを理解し、説明できる。				〃
第5回	女性に対する理学療法を理解し、説明ができる。				高田理恵子
第6回	排泄のメカニズムを理解し、高齢者における排泄リハビリテーションについて説明できる				福島芳子
第7回	熱傷の概要と評価・重症度判定について理解し、説明できる。				〃
第8回	熱傷患者への注意事項を理解し、必要なリハビリテーションについて説明できる。				〃
第9回	糖尿病について理解し、説明できる。				明瀬敬二
第10回	糖尿病の分類および合併症について理解し、説明できる。				〃
第11回	糖尿病の原因と予防、理学療法について理解し、説明できる。				〃
第12回	その他の代謝性疾患（肥満、慢性腎臓病）について理解し、説明できる。				〃
第13回	ニューロリハビリテーション（基礎編：脳機能からの身体運動への接近）				池田耕治
第14回	ニューロリハビリテーション（応用編：研究成果から臨床応用へ）				〃
第15回	試 験				

学 科	理学療法学科 3年次	教育 内容	理学療法治療学	科目名	理学療法治療手技論
代表講師	福島 芳子 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	前・後期：30回 (60時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法業務に携わった経験を持つ教員が、提示された整形外科疾患の症例を通して、評価から治療プログラム立案、プログラムの実施までを解説し、指導する。その後、各専門的な治療手技を講義し、実技指導する。				
授業概要	提示された整形外科疾患の症例に対して、問題点を考え治療プログラムの立案及び実施をTBLにて実施する。また、基礎知識や各症例に応じた治療手技についても学ぶ。				
到達目標	理学療法士として臨床に必要な知識を統合し、基本的治療手技を身につける。 代表的な理学療法治療手技の理論およびその基本的手技について学ぶ。				
成績評価の方法と基準	前期:TBL で考えたレジユメの発表 (30%)、TBL で考えた実技の発表 (30%)、形成的評価 (40%) 後期：形成的評価 (各項目の担当者からの課題) 合計 100%				
テキスト・教材等	配布資料 他				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	整形外科疾患の症例について基本的理学療法の立案をすることができる (TBL)				専任講師
第2回					
第3回					
第4回					
第5回					
第6回	症例についてICFでの問題点抽出、目標設定、プログラム立案、統合と解釈をレジユメにて発表 (TBL)				
第7回					
第8回	立案した内容を実際実施して確認し、実技にて発表 (TBL)				
第9回					
第10回					
第11回					
第12回					
第13回	整形外科疾患症例を通して疾患概要、評価、運動療法、ADLについて理解を深める				
第14回					
第15回	まとめと形成的評価				
第16回	急性期におけるリスク管理と治療 (講義と実技) 呼吸リハを含めて				加藤孝則
第17回					
第18回	整形外科疾患の治療と指導 (講義と実技) (基本的運動療法・治療法OKC・CKCなど)				福島芳子
第19回					
第20回	テーピングの理論と実践 (スポーツ現場での応急処置についての講義と実技)				高田理恵子
第21回					
第22回					
第23回	徒手療法の理論と実践				明瀬敬二
第24回					
第25回					
第26回	中枢疾患の評価から治療まで：痙性麻痺に対する治療 (認知神経リハビリテーション)				池田耕治
第27回					
第28回	PNFの理論と実践				高田理恵子
第29回					
第30回					

学 科	理学療法学科 3年次	教育 内容	理学療法治療学	科目名	物理療法学
代 表 講 師	明 瀬 敬 二 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	前期：30回 (60時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法業務に携わった経験を持つ教員が、温熱療法や寒冷療法など物理療法の基礎知識に対して講義し、演習を通して指導する。				
授 業 概 要	物理療法の基礎知識から臨床場面における応用、適用の方法を講義と演習を交えて指導する。各単元の終わりには演習課題を出し、学習成果を確認する。				
到 達 目 標	1. 物理療法の意義・目的を述べることができる。 2. 物理療法の適用・禁忌を述べることができる。 3. 物理療法器具の基本的操作ができる。				
成績評価の方法と基準	単元毎に形成的評価を実施 ※筆記試験は実施しない (80%)、演習レポート (20%)				
テキスト・教材等	『最新理学療法学講座 物理療法学』				
回 数	授 業 内 容				
第1回	総論：物理療法の定義・目的・分類				
第2回	総論：分類・基礎物理学 (単位など)、リスク管理・禁忌				
第3回	物理療法の臨床応用と評価				
第4回	物理療法の臨床応用と評価				
第5回	温熱療法				
第6回	温熱療法				
第7回	寒冷療法				
第8回	寒冷療法				
第9回	演 習				
第10回	演 習				
第11回	電磁波療法				
第12回	電磁波療法				
第13回	超音波療法				
第14回	超音波療法				
第15回	電気刺激療法1				
第16回	電気刺激療法2				
第17回	光線療法				
第18回	光線療法				
第19回	牽引療法				
第20回	牽引療法				
第21回	水治療法				
第22回	水治療法				
第23回	演 習				
第24回	演 習				
第25回	リハビリテーションロボット				
第26回	随意運動介助型電気刺激				
第27回	随意運動介助型電気刺激				
第28回	物理療法の臨床応用				
第29回	物理療法の効果判定				
第30回	演 習				

学 科	理学療法学科 3年次	教育 内容	理学療法治療学	科目名	義肢装具学Ⅱ
代表講師	笹川友彦(所属:熊本総合医療リハビリテーション学院) 福島芳子(所属:熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講義	単位数	1	学期・回数	前期:15回(30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	義肢装具士として臨床経験豊富な教員が、実際の義肢を用いながら特徴やチェックアウトなどの基本的事項と異常歩行の原因について講義する。また、整形外科領域に係る教員が、切断の評価及び理学療法について講義する。				
授業概要	糖尿病などが原因による下肢切断が増えている現状、実習で経験する機会もあるだろう。義肢は切断者にとって欠損部分を補うために必要不可欠なものである。義足の場合、単純に「歩く」ということがゴールではなく、切断前と同じようなより機能的な歩行とADLを獲得することを目標とする。そのために必要な継手やソケット、足部および理学療法について学習する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・義肢に関する基本的事項を理解し、特徴とチェックアウト、異常歩行について説明することができる。各種継手の機能と特徴を説明できる(笹川)。 ・切断の基本的な評価を説明できる。断端の拘縮予防や筋力強化等の必要性を理解し理学療法およびADLに繋げて説明できる(福島) 				
成績評価の方法と基準	筆記試験 100%				
テキスト・教材等	『義肢装具のチェックポイント』、『PT・OT ビジュアルテキスト 義肢学・装具学』、配付資料				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	上肢切断の特徴、義手の種類、能動義手・電動義手について				笹川友彦
第2回	足部部分義足の種類と適合評価、サイム切断の特徴とサイム義足ソケットの種類と適合評価				〃
第3回	下腿義足ソケットの種類と特徴および適合評価				〃
第4回	足継手と足部				〃
第5回	下腿義足のアライメント				〃
第6回	大腿義足ソケットの種類と特徴および適合評価				〃
第7回	膝継手と股継手				〃
第8回	大腿義足のアライメント				〃
第9回	大腿義足のアライメント				〃
第10回	膝義足ソケットの種類と適合評価、膝義足のアライメント				〃
第11回	股義足ソケットの種類とアライメント				〃
第12回	下肢切断の理学療法評価				福島芳子
第13回	下肢切断者に対する理学療法プログラム				〃
第14回	下肢切断者に対する理学療法プログラム、ADL指導				〃
第15回	試 験				

学 科	理学療法学科 3年次	教育 内容	理学療法治療学	科目名	理学療法学研究 I
代表講師	次 山 航 平 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講 義	単位数	1	学期・回数	後期：15回 (30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法士に必要な問題解決能力を身につけるため、各々の専門性をもった教員の指導のもと、対象者の運動療法を実践するにあたり、必要な評価や訓練方法について学習し、客観的に分析することを学ぶ。				
授業概要	臨床において日々の疑問を解決するためには、文献検索や症例検討などは必要である。理学療法研究を進めるにあたり、対象や介入方法、評価・測定方法などの研究デザインを考え、研究計画書を作成する。				
到達目標	論文の構成について理解することができる。 理学療法研究の進め方について理解することができる。 理学療法領域における様々な事象に興味関心をもち、科学的思考を深めながら自らの卒業論文研究計画を立案することができる。				
成績評価の方法と基準	研究計画書 (100%)				
テキスト・教材等	文献・ジャーナル・配布資料等				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	研究計画の考え方・進め方を理解する。				坂崎浩一 池田耕治 福島芳子 高田理恵子 加藤孝則 明瀬敬二 次山航平 高嶋美和
第2回					
第3回	ワークショップ ・先行研究の精査とレジメを作成する。 ・グループ内での意見交換と研究の方向性を検討する。				
第4回					
第5回	ワークショップ ・複数の文献をもとに、立てられた仮説や疑問の検証方法について検討する。				
第6回					
第7回	ワークショップ ・対象の妥当性について検討する。 ・方法の妥当性と基本的統計手法について検討する。				
第8回					
第9回	個別指導 ・研究テーマ、仮説、対象、具体的方法論を検討する。				
第10回					
第11回					
第12回	研究計画書の作成 (1次審査)				
第13回	予備実験の実施と研究計画書について再検討する。				
第14回					
第15回					

学 科	理学療法学科 3年次	教育 内容	理学療法治療学	科目名	理学療法演習Ⅲ
代表講師	次 山 航 平 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講 義	単位数	1	学期・回数	後期：15回 (30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法士に必要な能力を身に付けるため、各々の専門性を持った教員の指導のもと、対象者の運動療法を実践するにあたり、必要な評価や訓練の方法について学ぶ。				
授業概要	1年次では『リハビリテーション医療』における身体に関する基本的知識を学び、2年次では「解剖学」・「生理学」・「運動学」の3教科を臨床に向かうため応用することを学んだ。3年次では臨床場面で多く経験する疾患毎のリスク管理や理学療法の展開について学ぶ。				
到達目標	臨床場面で多く経験する疾患について、理学療法の展開において症例を把握するために、治療場面を想定して思考・実践することができる。				
成績評価の方法と基準	各担当終了時に形成的評価を実施する。(100%) 池田担当分 (プレ及びポストテストの成績で換算する)				
テキスト・教材等	配布資料 等				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	オリエンテーション (各担当より演習内容の説明)				池田耕治 福島芳子 高田理恵子 加藤孝則 明瀬敬二 次山航平 高嶋美和
第2回	理学療法における臨床場面において、経験する以下の疾患について演習を通して、理学療法の展開について学ぶ。				
第3回					
第4回					
第5回					
第6回					
第7回					
第8回					
第9回					
第10回					
第11回					
第12回					
第13回					
第14回					
第15回					

学 科	理学療法学科 3年次	教育 内容	地域理学療法学	科目名	生活環境論
代 表 講 師	池 田 由 里 子 (所属：株式会社リハブインテリアズ) 四 海 公 貴 (所属：訪問看護・リハビリステーションふいっと) 高 田 理 恵 子 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・実技	単位数	1	学期・回数	前期：15回 (30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	家屋改修など住環境に関わった経験を持つ理学療法士が担当し、理学療法士の視点での住環境を講義する。				
授 業 概 要	高齢者や障がい者の生活機能障害と家族の負担軽減に向けた生活環境の提供ができるように講義を行う。対象者にとって住みやすく、楽しい環境を提供できる知識がみにつくように講義を行う。福祉住環境コーディネーター検定受験に役立つ内容を講義する。				
到 達 目 標	高齢者や障害を持つ方々に対する生活における住環境の問題点を学習し、改善方法を学ぶ。高齢者や障害をもつ方々の生活環境改善に向けたアドバイスなどを具体的に説明できることを目標とする。				
成績評価の方法と基準	筆記試験				
テキスト・教材等	『改訂6版福祉住環境コーディネーター2級公式テキスト』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	住環境についての考え方を理解し、説明できる。(家具、収納への配慮について)				池田由里子
第2回	住環境についての考え方を理解し、説明できる。(色彩、照明、インテリアへの配慮について)				〃
第3回	住環境についての考え方を理解し、説明できる。(収納やデザインの工夫について)				〃
第4回	住環境についての考え方を理解し、説明できる。(海外の施設と日本の施設のデザイン)				〃
第5回	介護を要する方への住環境整備のサポートの実際を理解し、説明ができる。				四海公貴
第6回	介護を要する方への住環境整備のサポートの実際を理解し、説明ができる。				〃
第7回	理学療法における生活環境学の考え方、障害のとらえ方高齢者の特徴を理解し説明ができる。				高田理恵子
第8回	生活環境整備に関連する法的制度について理解し説明ができる。				〃
第9回	生活環境整備の基本を理解し、説明ができる。				〃
第10回	生活環境整備の基本を理解し、説明ができる。				〃
第11回	生活環境整備の基本を理解し、説明ができる。				〃
第12回	移動能力別に見た脊髄損傷における生活上の問題点と住環境の概要を理解する。				福島芳子
第13回	頸髄損傷の住環境の概要について理解する。				〃
第14回	頸髄損傷・脊髄損傷の住環境と福祉用具・移動用具について理解する。				〃
第15回	試 験				

学 科	理学療法学科 3年次	教育 内容	地域理学療法学	科目名	福祉用具論
代表講師	竹内久美 (所属：熊本託麻台リハビリテーション病院) 高嶋美和 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講義・実技	単位数	1	学期・回数	後期：15回 (30時間)
授業概要	福祉用具の概要、名称と構造について説明し、その適合と使用方法について説明し、実技を行う。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な立場から患者・利用者に福祉用具の必要性和使い方を説明できる。 ・福祉用具を使用し、する側とされる側の感覚を体験する。 				
成績評価の方法と基準	筆記試験 100%				
テキスト・教材等	『福祉機器選び方・使い方』、『福祉用具シリーズ』(テクノエイド協会) 『改訂第6版福祉住環境コーディネーター2級公式テキスト』、配布資料				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	・福祉用具概論 福祉用具とその定義、役割、分類、障害特性と福祉用具について説明できる。				高嶋美和
第2回	・福祉用具概論 ノーリフティングケアについて(概要と体の使い方)について説明できる。				〃
第3回	・起居動作関連用具 特殊寝台(付属品)の構造と選び方、使用方法について説明できる。				〃
第4回	・起居動作関連用具 褥瘡と褥瘡予防用具(エアマット・マットレスなど)について説明できる。				〃
第5回	・移乗動作関連用具：移乗補助具1 スライディングシート、グローブについて説明できる。				〃
第6回	・移乗動作関連用具：移乗補助具2 スライディングボード、リフトについて説明できる。				〃
第7回	・移動動作関連用具：歩行関連用具1(杖各種)				竹内久美
第8回	・移動動作関連用具：歩行関連用具2(歩行器各種)				〃
第9回	・移動動作関連用具：車椅子の種類・構造、使用法				〃
第10回	・移動動作関連用具：シーティングの基礎知識1				〃
第11回	・移動動作関連用具：シーティングの基礎知識2				〃
第12回	・排泄動作関連用具 補助便座、トイレ用車椅子、集尿器について説明できる。				高嶋美和
第13回	・入浴動作：入浴関連用具				竹内久美
第14回	・食事・更衣・整容動作：食事・更衣・整容関連用具(自助具)、コミュニケーション用具				〃
第15回	試 験				

学 科	理学療法学科 3年次	教育 内容	臨床実習	科目名	地域理学療法実習
代表講師	次 山 航 平 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	実 習	単位数	1	学期・回数	後期：40時間
実務経験内容及び授業内容との関連性	現役の理学療法士が病院・施設等の臨床現場において、臨床参加型実習にて、地域理学療法の一連の流れについて経験を通して教育を行う。				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の現場で1週間実習しながら、デイサービスや訪問リハの流れや制度について学ぶ。 ・地域で生活をしている障害者、高齢者に対する理学療法の知識・技術がどのように活用できるかを、実習を通して学ぶ。 ・「暮らしを営む」ということはどういうことかを認識し、理学療法士はどのように関わっていくかを学ぶ。 ・社会的資源をどのように活用しながら在宅生活を営んでいるかを学ぶ。 ・家族を含め、他職種とのつながり、連携の重要性について学ぶ。 ・担当者会議、カンファレンス等への参加を通じ、サポート体制、他職種との連携の重要性について学ぶ。 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険や福祉サービスの制度について理解する。 ・対象者の理学療法ニーズを把握することができ、そこからどのような理学療法サービスを提供していくかを理解することができる。 				
成績評価の方法と基準	・ポートフォリオ評価 (50%) ・記述試験 (50%)				
テキスト・教材等	臨床実習の手引き・実施要項 他				
期 間	授 業 内 容				担当講師
1週間	期 間：2024年12月9日(月)～12月14日(土) 学習内容： <ul style="list-style-type: none"> ・地域で働く理学療法士の業務内容と役割について ・他職種との連携について ・担当者会議、ケアカンファレンスへの参加 ・在宅生活を支援する資源について ・福祉用具の選定、住宅改修・環境調整等への参加 ・その他、可能な範囲での理学療法体験 				臨床実習 指導者

学 科	理学療法学科 3年次	教育 内容	臨床実習	科目名	臨床実習 I
代表講師	次 山 航 平 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	実 習	単位数	7	学期・回数	後期：280時間
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法士に必要な能力を身につけるため、病院・施設等の臨床現場において、実習指導者の指導のもと、臨床参加型の実習にて、症例の評価、問題点の抽出・治療プログラムの立案実施を行う。				
授業概要	対象者の身体的・内面的評価、治療計画の立案、具体的治療の実施、記録と報告、再評価など基本的理学療法臨床能力を身につける。また、その過程で理学療法士としての未決課題を発見し、解決への努力をする。				
到達目標	基本的理学療法について、十分な指導・助言により行動目標に到達できるレベルまたは十分な指導・助言により模倣できるレベルを目標とする。				
成績評価の方法と基準	OSCE (客観的臨床能力試験) (50%) ポートフォリオ評価 (30%) 記述試験 (20%)				
テキスト・教材等	臨床実習の手引き・実施要項他				
期 間	授 業 内 容				担当講師
7週間	期 間：2024年10月15日(火)～11月30日(土) 学習内容： <ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習指導者の指導を受けながらの患者の評価、治療計画の立案、具体的治療の実施。 ・その他記録・報告、再評価等の一貫した治療行為を習得する。 ・理学療法士の管理運営業務を学ぶ。 ・患者に対する総合的リハビリテーションサービスの中における理学療法の意義を考え、理学療法士の役割と機能を学ぶとともに今後進むべき方向、研究テーマを考える。医療人としての態度を身につける。 				臨床実習 指導者